



## 結成30年、培った組織力を基に 更なる闘いを推し進めよう！ 第37回定期大会成功裡に終了

JR東海労は6月13日、名古屋市内で結成30年を記念しての第37回定期大会を開催しました。

木下委員長は、挨拶で「30年間で培った組織力を基に、未来に向け更に奮闘しよう。新幹線乗務員の54歳原則出向の再開に対し、組織と運動を守るために奮闘しよう。経営破綻が危ぶまれるリニア建設に対し、更に闘いを強化しよう」と訴えました。

質疑では、結成以降30年間の闘いを振り返る発言をはじめ、「54歳原則出向の会社の目的を議論し、反撃の闘いを展開している」「空白勤務は違法だとして提訴した。全乗務員を代表して闘う」「ワクチン休暇をつくるべきだ」「リニア建設反対の闘いを強化する」など、積極的な発言が相次ぎました。

その後、新幹線乗務員の出向に抗して闘っている新幹線地本と新幹線関西地本に、空白勤務裁判の原告団に、各地方からそれぞれ激励が渡されました。

本橋書記長は、総括答弁で「新幹線運転士が運転中トイレに行った事象は、会社の社員管理の問題が背景にある。会社の姿勢を糾す闘いを展開しよう。JR東海労の未来を創造するために、森下さん、松山さん、水野さんと共に闘おう。更なる組織拡大を目指そう」と訴え、大会は成功裡に終了しました。

